大内董著

訟庭要覽

附録

東京圖書館
新門 一部 一類
函 一四 架 三 號 五九〇五

CZ
771
06

共四本

TOKYO TOSHOKAN
東京圖書館
圖書寮
文庫
明治五年
創立
FOUNDED BY MOMBUSHO 1872.
CZ
771
06

訟庭要覽 附錄

明治八年內務省進刻局交付

大內董平著

○外國人訴訟規則明治六年六月十三日太政官第二百五号御布告

外國人日本人ニ對シタル事件各開港場或ハ開市場裁判所ヘ訴出ル者ハ總テ左件ノ定則ヲ遵守スベシ

聽訟手續第一章

一訴訟ヲナス者ハ総テ書面ヲ以テシ原告人或ハ正ノ法ニ従テ委任ヲ受タル代人ヨリ左ノ各条ニ従ヒ明細ニ認メ出スベシ其訴状或ハ他ノ書類ニテモ外国文ヲ以認アルモノハ裁判所ニテ要スル時ハ一々日本文ヲ添ヘ出スベシ

第一　原告人ノ本国并日本居留ノ住所氏名

第二　被告人ノ住所身分姓名

第三　求ムル所ノ金額或ハ賠償ノ高

第四　訴訟ノ由テ生スル明細ナル情実

第五　取引中被告人ヨリ原告人ノ受取タル金及品物アレハ其員数ヲ明細記載スベシ

第二章

一訴状ノ書類ハ総テ本書ト真正ノ写ト都合二通ヲ出スベシ

第三章

一訴状ヲ受取タル上ハ其証跡明確ナル片ハ直ニ其被告人ヲ裁判所ニ呼出シ答弁ヲナサシ

ムベシ

一証跡明確ナラサル時ハ裁判所見込ヲ以テ原告人ヨリ証據金又ハ受合証書ヲ出セシ上被告人ヲ呼出スベシ

第四章

一被告人ノ答弁モ亦自身或ハ正ノ法ニ従テ委任ヲ受タル代人ニテ記名シタル書面ヲ以テ其訴状中ノ件々ニ對シ一々答弁ヲ為スベシ

第五章

一被告人ノ答書モ亦正副二本ヲ出スベシ原告人一見センヿヲ乞フ者アラハ副本ヲ以テ貸與ルヿヲ得セシムベシ

第六章

一訴状ハ被告人ヨリ書面ヲ以テ開申セル日ヲ以テ順次ヲ立テ裁判ヲ為スベシ但事故アリテ原告人及被告人ノ双方或ハ其一方ヨリ裁判猶豫ヲ願出ル時ハ此例ニ非ス

第七章

一審問及裁判ノ日限ハ前以双方ノ者共ヘ報知シ置一件始終ノ審問ハ凡テ之ヲ公ニスベシ

諸引合人ハ其訟庭ニ出テタルトキハ先引合トシテ差出セシ本人ヨリ引合人ヘ對一々ソノ事蹟ヲ質問シ而シテ後相手方亦審官ニ乞ヒ右ノ引合人ヘ對シ真否ヲ質問スルヲ得ベシ若シ又一方ノ人自ラ証明センヿヲ申立ル時ハ審官ハ令ニヨリ相手方之ニ對シテ質問スルヲ得ベシ審官ハ此間何時ニテモ引合人ニ質問スベシ引合人ハ引合ノ任ニ当ル前毫モ欺詐ヲ用ヒス誠実ニ応答ヲナスベキヿヲ陳述スベシ

第八章

一引合人ノ申立ヲ閲終リテ後尚一方ヨリ申立ルヿアリト乞フ時ハ其對論ヲ閲キ若シ双方ヨリ申立ル事アルトキハ原告其對論ヲ始メ且之ヲ終ルヲ得ベシ

第九章

一原告人或ハ被告人孰レヲテモ差出セル証拠書ハ裁判所ノ免許ヲ得テ写ヲ差出シ本書ヲ取下ルヲ得ベシ

第十章

一訳官ヲ要スル時ハ双方自ラ之ヲ差出スベシ若シ出シ能ハサルトキハ裁判所ニテ相当ノ人ヲ得ベキトキハ裁判所之レニ命シテ任セシメ其用ニ供セル方ヨリ相当ノ料ヲ差出サシムベシ

第十一章

一都テ訴訟ノ裁決ハ其裁判ノ條理ヲ書面ニ認メ訴状ニ添置クベシ孰レノ方ニテモ望ミアルトキハ右裁決或ハ意見ノ書及其訴訟ニ関シ差出セル書類ノ寫ヲ一見スルヿヲ得ベシ

第十二章

一裁決ノ後十日ヲ経サル内裁決ヲ受ケシ方ヨリ相手方ニ掛合ノ上再ヒ裁判ヲ乞フ時ハ裁判所之ヲ聽用スヘシ尤裁判所ニテ以前ノ裁判不当ナリト思フトキ或ハ裁決ノ後新タニ肝要ナル証拠ヲ得如此証拠ヲ差出スニ於テハ裁判所必ス以前ノ裁決ヲ更変スルノ理アリト思フ時ニ限ルヘシ

第十三章

一各港場裁判所ニ於テ處断セル裁判ノ趣ニ不

伏ナル時ハ司法省裁判所ヘ上告スルヲ得ヘシ

第十四章

一前条ノ如ク上告スルニハ裁決ノ後三ケ月ヲ越ユヘカラス且右ノ情由豫メ相手方或ハ代人ノアル時ハ其代人ニ書面ヲ以テ告知ラセ旦其開港場ノ裁判所ヘモ豫メ其情由ヲ申立ヘシ

但上告スルモノ故アリテ此期限ヲ延ンヿヲ欲スルモノハ預ケ金ヲナシ又ハ証書ヲ出シ豫メ願立ルトキハ事実不得止分ハ六ケ月迫ハ裁判所之ヲ許容スヘシ既ニ上告ニ及フトキハ其裁判ヲナシタル開港場或ハ開市場ノ裁判所ヨリモ司法省裁判所ヘ其情由ヲ告知シ双方ノ口書及其訴訟ニ関シタル諸書付ノ寫ヲ差出スヘシ

第十五章

一裁判所ハ裁判ニヨツテ決定スル所ノ償還ハ速ニ之ヲ遂ケシムル様取計フヘシ

沿罪手續第一章

一日本人ノ罪科アルヲ外國人ヨリ申出ル片ハ公然之ヲ吟味スヘシ原告人及其引合人トナルヘキト申出タルモノ或ハ被告人及其引合人タルヘキ者ヲ吟味スルヿ猶訴訟手續ニ於ケルカ如シ

第二章

一裁判所ハ訴訟裁判ニ於ルカ如ク罪科裁判ニ於テモ原告人或ハ被告人ヲ論セス孰レノ方ニテモ其引合人トナルヘキモノヲ呼寄セント欲スルトキハ其裁判所ノ權限ニ循ヒ之ヲ扶助ナスヘシ

第三章

一罪科ノ裁決ハ書面ヲ以テシ被告人罪科ニ伏スルトキハ之ヲ普通至当ノ罪科ニ處スヘシ

○訴答文例并附錄明治六年七月十七日太政官二百四十七号御布告

第一卷　原告人ノ訴狀

第一章　原告人ヨリ被告人住所身分ノ書付ヲ取ル事

第一条　訴訟ヲ為サントスル原告人ハ其管轄

原告被告人訴狀答書ノ事　明治七年七月十四日太政官第七十五号御布告

一原告人被告人訴狀答書及ヒ双方往復文書ヲ作ル代書人ヲ撰ミ代書セシムル共又ハ代書人ヲ用ヒスシテ自書スルヒ總テ本人ノ情願ニ任スヘキ事

一原告人被告人ニテ代書人ヲ用ヒサルキハ親戚又ハ朋友ノ者ヲ以テ証添人トナシ訴状答書等ヘ連印セシムヘキ事

但訴答文例中本文ト相抵觸スル廉々ハ総テ廃止ノ儀ト可相心得事

ノ町村役場ノ添翰ヲ以テ被告人ノ現住居轄ノ町村役場ニ至リ被告人ノ身分ノ書付ヲ取タル後訴状ヲ作ルヘシ若シ住所氏名身分明瞭ナラハ其書付ヲ取ルニ及ハス

住所トハ某府縣管下某国某郡某町村住居又ハ寄留ト記スノ類

身分トハ官名役名華族士族神職僧尼百姓何職何商賣何渡世ト記スノ類

若シ一戸ノ本主ニ非スシテ子弟又ハ厄介ノ類ハ某ノ子弟又ハ某厄介ト記スヘシ

第二条　原告人被告人ト管轄ヲ異ニシ道路隔絶ナラハ原告人我管轄ノ町村役場ニ願ヒ役場ノ文通ヲ以テ被告人ノ氏名住所身分ノ書付ヲ取ルモ亦妨ケ無シトス但役場文通ノ入費ハ原告人ヨリ償フ可シ

但此章原告外國人ナル片ハ本国名前国職分及寄留ノ処ヲ訴状中ニ記載シ次ニ被告ノ名前職分住所等委細記載スヘシ

第三章　代書人ヲ用ユル事

第三条　原告人訴状ヲ作ルハ必ス代書人ヲ撰

ミ代書セシメ自ラ書スルヿヲ得ス但從前ノ
代添人ヲ廢シ之ニ代ルニ代書人ヲ以テス

第四条　訴訟中訴狀ニ關係スルノ事件ニ付被告人ト往復スルノ文書モ亦代書人ヲシテ書セシメ且代書人ノ氏名ヲ記入セシム可シ若シ代書人ヲ經サル者ハ訴訟ノ証トナスヿヲ得ス

第五条　代書人疾病事故アリテ之ヲ改撰スル時ハ即日賴主ヨリ裁判所ヘ届ケ且ツ相手方ニ報告ス可シ其裁判所ニ届ケス被告人ニ報告セサル以前ハ仮令代書スルモ代書人ト者做スヿヲ得ス

但外國人ハ此章ノ限ニ非ス

第三章　訴狀ノ定則ノ事

第六条　訴狀ヲ作ルニハ左ノ定則ニ循フ可シ

第一　訴狀ハ簡明確実ニシテ憑據トナス可キ事件ヲ掲ケ文節冗長ナラサルヿニ注意シ自己ノ想像ヲ以テ踪跡ナキ事件ヲ述ルヿヲ得ス

第二　一切ノ訴狀ハ首ニ原被告人ノ氏名ヲ

記シ住所身分ヲ肩書ニシ其末ニ年月日ヲ記シ原告人ト代書人トノ氏名連印スヘシ

附錄第一号ヲ見合スヘシ

但外国人ノ為ニハ第一章但シ書ヲ見ルヘシ

第三　訴狀ノ末ニ署スル氏名ハ其本人自署スヘシ若シ自署スル能ハサル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記スヘシ

第四　訴狀ハ十六行ニシテ一行十五字詰ニ認メ正副二通ヲ具スヘシ

但外國人ノ訴狀ハ銘々英佛語ヲ以テ認ルヿヲ得ヘシ其日本飜譯ハ裁判所ニ於テ正副二通ヲ認メ其手數料ヲ取立ツヘシ

第五　被告人ノ住所呼出ヲ受ク可キ裁判所ノ八里ノ距離外ニ在ル時ハ其里數ヲ被告人ノ氏名ノ左側ニ記載スヘシ若シ八里以内ナル時ハ其里數ヲ記載スルニ及ハス

第四章　訴狀ノ書式ノ事

第七条　貸附米金等淹滯ノ訴狀

貸附米金等淹滯ノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ米

金元利ノ計筭ト貸渡シタル年月日トヲ標記シ次ニ証書ノ全文ヲ寫載シ次ニ期ヲ過キテ返渋セサル事情ヲ書スヘシ（附錄第二号ヲ見合スヘシ）

田畠ヲ貸渡シタル小作米金又ハ物品ノ損料金又ハ諸種ノ立替金又ハ召抱人等ノ引負金又ハ職人等ノ前貸米金又ハ貸地貸家等ヲ受取ラントスルノ訴状モ亦本條ニ照スヘシ

但以下十九条迄原告外國人ナル時ハ其訴訟ノ趣意ヲ願書ヲ簡明ニ記載スヘシ（但附錄第十八号見合スヘシ）

第八条　預ケ米金滞ノ訴状

預ケ米金滞ノ訴状モ住所氏名ノ次ニ米金ノ員数ト預ケタル年月日トヲ標記シ次ニ其証書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約シテ返渋セサル事情ヲ書スヘシ

借地等ノ敷金又ハ妻及ヒ養子女等ノ持参金又ハ実家若クハ親族等ノ仕送リ金ヲ受取ントスルノ訴状モ亦本条ニ照スヘシ

第九条　賣掛代金滞ノ訴状

賣掛代金滞ノ訴状モ住所氏名ノ次ニ金高ヲ標記シ次ニ其帳面総計ノ高ヲ出シ之ニ被

告人ノ証印アルヿヲ記入シ次ニ違約滯滯シタル事情ヲ書スヘシ（附錄第二号ヲ見合スヘシ）可シ

費拂代金又ハ旅籠代金賄代金等通帳附込帳等ニ被告人ノ証印ナキ時ハ原告人ノ証據トハ為スヿヲ得ス

第十条　手附金賈買違約ノ訴状

諸物品ヲ買ヒ手附金ヲ渡シ約定期限内ニ残金ヲ渡サントスル時ニ至リ被告人違約シテ諸物品ヲ渡サヽルノ訴状モ住所氏名ノ次ニ買付タル物品ノ総高次ニ手付金ヲ渡シタル年月日及ヒ残金ヲ渡シ物品ヲ受取ヘキ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書スヘシ（附錄第四号ヲ見合スヘシ）

諸物品ヲ賣リ手附金ヲ受取リ約定期限ニ至リ残金ヲ受取ル可キ時ニ被告人違約シテ残金ヲ渡サヽルノ訴状モ住所氏名ノ次ニ手附金ヲ受取タル年月日及ヒ残金ヲ受取リ物品ヲ渡ス可キ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ（附錄第五号ヲ見合スヘシ）

第十一条　受負料淹滞ノ訴状

諸職業受負淹滞ノ訴状モ住所氏名ノ次ニ受負ヒタル年月日ト受負ノ金高ト既ニ受取リタル金数ト未タ受取ラサル金数トヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ写載シ次ニ違約ノ事情ヲ書スヘシ

第十二条　奉公人違約ノ訴状

奉公人ニ年期ヲ約シ前金ヲ渡シ其年期未満内ニ其家ヲ出テ還ラサル者ヲ取返サントスルノ訴状モ住所氏名ノ次ニ抱入レタル年月日ト約定ノ年期ト前渡シノ金数ヲ標記シ次ニ其証書ノ全文ヲ写載シ次ニ違約ノ事情ヲ書スヘシ

職業傳習ノ弟子職業練熟ノ後ハ礼奉公ノ年期ヲ約シ年期未満内ニ其家ヲ出テ還ラサル者ヲ取戻サントスルノ訴状モ亦本条ニ照スヘシ

奉公人又ハ弟子奉公ノ者等其主人師匠ヨリ受取可キ給米金淹滞ノ訴状モ亦本条ニ照スヘシ

第十三条　專賣免許ヲ犯シタルノ訴狀

專賣ノ免許ヲ得タル者ヨリ他ノ摸倣密賣スル者ヲ差留メントスルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ專賣免許ヲ得タル年月日ト免許ヲ受タル役所ノ名ト專賣免許ノ年限トヲ標記シ次ニ免許ノ証印又ハ証書ヲ寫載シ次ニ其密賣ノ事情ヲ書スヘシ

諸商工專賣ノ免許ナクシテ株式ト称スル者ハ自己ニ妨アルヲ以テ他人ノ商業ヲ差留ル事ヲ訴ルヲ得ス

第十四条　商社中取引ノ訴狀

商社中甲ノ商人ヨリ乙ノ商人ニ對シ各種ノ取引ノ米金又ハ物品ノ類ニテ乘合商賣ト称スル者モ証書確実ナル者ハ之ヲ訴ルヲ得可シ其訴狀ハ取引ノ模様ニ付キ各種ノ本条ニ照ス可シ

先ニ開キシ商社ニ後ニ開カシトスル商社ノ妨クルヲアルヲ以テ之ヲ訴ルヲ得ス但シ專賣免許ヲ犯スヲ得サルノ法ト相抵觸スルヲ無ル可シ第十三条ヲ見合スヘシ

第十五条　夫妻離別ノ訴状

夫妻離別ノ訴状モ住所氏名ノ次ニ夫妻ノ氏名生年及ヒ婚姻ノ年月日ヲ標記シ次ニ其戸長役場ニ届置キタル戸籍人別ヲ写載シ次ニ離縁ヲ為スヘキ原由ヲ書スヘシ

原告人夫ナレハ其父母若シ父母在ラサレハ祖父母祖父母アラサレハ尊族ノ親尊族ノ親アラサレハ卑族ノ親卑族ノ親アラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲナス可シ（附録第六号ヲ見合スヘシ）

原告人妻ナルモ前条ニ照シテ其父母親族等ヨリ訴フヘシ若シ事危急ニ出テ親族等ニ告ルニ暇ナキハ自ラ訴フヿヲ得ヘシ

第十六条　養子女ヲ離別スル訴状

養子女ヲ離別スルノ訴状モ住所氏名ノ次ニ養父母及ヒ養子女ノ生年ト其養子女トナシタル年月日ヲ標記シ次ニ原被双方ノ戸籍人別ヲ写載シ次ニ離別スヘキ原由ヲ書シ原告人親族アラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲナスヘシ

第十五条　夫妻離別ノ訴状

夫妻離別ノ訴状モ住所氏名ノ次ニ夫妻ノ氏名生年及ヒ婚姻ノ年月日ヲ標記シ次ニ其戸長役場ニ届置キタル戸籍人別ヲ写載シ次ニ離縁ヲ為スヘキ原由ヲ書スヘシ

原告人夫ナレハ其父母若シ父母在ラサレハ祖父母祖父母アラサレハ尊族ノ親尊族ノ親アラサレハ卑族ノ親卑族ノ親アラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲナス可シ（附録第六号ヲ見合スヘシ）

原告人妻ナルモ前条ニ照シテ其父母親族等ヨリ訴フヘシ若シ事危急ニ出テ親族等ニ告ルニ暇ナキハ自ラ訴フヿヲ得ヘシ

第十六条　養子女ヲ離別スル訴状

養子女ヲ離別スルノ訴状モ住所氏名ノ次ニ養父母及ヒ養子女ノ生年ト其養子女トナシタル年月日ヲ標記シ次ニ原被双方ノ戸籍人別ヲ写載シ次ニ離別スヘキ原由ヲ書シ原告人親族アラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲナスヘシ

本生父母ヨリ養子女ヲ取戻サントスル訴状

モ本条ニ照スヘシ若シ本生アラサレハ其親族ヨリ訴ルヿヲ得ヘシ

養子女ヨリ養父母ヲ相手トリテ自ラ離別ヲ乞ノ訴ヲナスヿヲ得ス

第十七条　家督相続ノ訴状

家督相続ヲ争フ訴状モ住所氏名ノ次ニ亡父母ハ死亡ノ年月日生父母ハ其生年ト原被告人生年トヲ標記シ次ニ其原被双方ノ戸籍入別ト譲状遺状等ノ証書アレハ其全文ヲ写載シ次ニ自己相続スヘキ條理ト被告人相続スヘキ条理ナキヿヲ書スヘシ（附録第六号ヲ見合スヘシ）

第十八条　田畠山林等賣買違約ノ訴状

田畑山林屋敷建家等ヲ買ヒ之ヲ受取ラレトスルノ訴状及ヒ貸地貸家ヲ取戻サントスルノ訴状モ第十条ノ第一項ニ照ス可シ

田畑山林屋敷建家等ヲ賣リ之ヲ引渡シテ其代價受取ントスルノ訴状モ第十条ノ第二項ニ照スヘシ

第十九条　経界ヲ争フノ訴状

國郡郷村山川田宅等ノ分界ヲ爭フ訴狀モ住所氏名ノ次ニ其旧記繪畫ノ枚數ヲ標記シ次ニ被告人ノ非理ヲ書ス可シ

旧記繪図ノ寫ハ別冊トナシ目錄ヲ附シ各番号ヲ朱記スヘシ

繪図ハ色ヲ以テ區別シ原告ノ區域ハ淺紅色ヲ用ヒ被告ノ區域ハ黄色ヲ用ヒ爭フ所ノ區域ハ着色ヲ用ヒズ其他ノ經界ハ別色ヲ用ユヘシ（附錄第七号ヲ見合スヘシ）

但第七条但シ書ヲ見ルヘシ

第二十条　控告ノ訴狀

原被告人預審又ハ終審ノ裁判言渡ヲ受ケ其裁決ニ服セスシテ之ヲ上等ノ裁判所ニ控告セントスルノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ訴訟ノ題目ト其年月日ト裁判所ニ呼出サレタル度数其年月日ト訟庭ニ臨ミタル裁判役ノ氏名ヲ知ルヲ得ヘキニ於テハ之ヲ記載シ次ニ其裁判言渡書ノ寫ト裁決ニ服セサルノ旨趣トヲ書シ且ツ前訴狀ノ寫ヲ別冊トナシ訴出可シ但シ控告人ノ住所ト控告ヲナス裁判所ト

ノ距離八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ得ルノ外裁決ノ言渡ヲ受タル日ヨリ三ケ月ノ期限ヲ過ル時ハ控告ヲ為スヿヲ得ス

預審又ハ終審ノ裁判以前ノ場合ニ於テ其裁判役ノ曲庭壓制等アルヲ以テ原被告人之ヲ上等ノ裁判所ニ申告スルモノモ亦本条ニ照スヘシ

第五章　一冊ノ訴状ハ一事件ニ止ルヘキ事

第二十一条　原被告人共人員多少ニ拘ラス訴状ハ一事ヲ一冊ニ書スルニ限ルヘシ又原告人一名ニシテ仝時ニ数件ヲ訴フルモ訴状ヲ各冊ニ作ルヘシ

第六章　一冊ノ訴状ニシテ二件以上ヲ合ワスヲ得ル事

第二十二条　貸借二事以上ニシテ原被告人共別人ニ非レハ一冊ノ訴状ニシテ二件以上ヲ合スヲ得可シ

第七章　原告人連名ノ訴状ノ事

第二十三条　債主連名ノ証文ヲ以テ米金等ヲ

貸附タル訴狀ハ連名ヲ以テ訴フ可シ若シ債主連名三人ナルヲ一人ニシテ訴フル片ハ他ノ二人ヨリ依頼ノ証書ヲ以テ訴フ可シ（附錄第八号ヲ見合スヘシ）

第二十四条　債主二人以上ニシテ管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ訴ルモ乙ノ管轄ニ訴ルモ其便宜ニ從フヘシ

第八章　連名ノ被告人ヲ訴フル事

第二十五条　負債主連名ノ借用証文ヲ以テ貸渡シタル米金等ノ訴狀ハ連名ノ人数ヲ尽ク相手取ル可シ

第二十六条　負債主連名中若シ失踪死亡等ニテ相續人ナキ者アラハ連名ノ末ニ其人名ヲ記シ年月日失踪死亡等ノ事ヲ其者ノ管轄戸長某ヨリ兼ルト附載スヘシ（附錄第九号ヲ見合スヘシ）

第二十七条　負債主ノ連名中管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ於テ審判スルヲ願モ乙ノ管轄ニ於テスルヲ願フモ原告人ノ情願ニ任スヘシ

第九章　讓証文ヲ以テ訴ル事

第二十八条　甲ヨリ乙ニ貸シ又ハ預ケタル米金ヲ甲ヨリ丙ニ讓リタルニ乙ヨリ丙ニ返渝セスシテ丙ヨリ乙ヲ相手取リ其米金ヲ受取シトスル訴狀モ住所氏名ノ次ニ甲ヨリ丙ニ讓リタル証文ヲ寫載シ若シ甲ヨリ丙ニ讓リタル証文無レハ甲ト乙ノ關係ニシテ乙ト丙トノ關係ナシトス故ニ丙ヨリ乙ヲ相手取ルヿヲ得ス（附錄第十号ヲ見合スヘシ）

第二十九条　父母祖父母等ノ貸付タル米金等ハ其家ノ相續ヲナシタル者ニ非サレハ其子孫ニシテ貸附証文ヲ所持スト雖モ父母祖父母等ハ讓渡シタル証書ナキ片ハ之ヲ訴フルヿヲ得ス

但外國人ハ其本人ノ國法ニ從ヒ正シキ權ヲ得ヘシ

第十章　代言人ノ事

第三十条　原告人ノ情願ニ因テ代言人ヲシテ代言セシムルヿヲ許ス

代言人ヲ用ユル者ハ其訴狀ノ奥書ニ代言人ニ依頼シタルヨヲ記載シテ原告人及ヒ代言

人ノ連印ヲナス可シ若シ連印ナケレハ代言セシムルヿヲ許サス（附錄第十一号ヲ見合スヘシ）

第三十一条　原告人代言人ヲシテ代言セシムル時訟庭ニ同席スル事ハ其情願ニ任カス

第三十二条　訴訟ニ関係スル書類ハ代言人又ハ保証人ノ類ト雖モ原告人ノ証トナルヘキ者ハ原告人ノ撰セタル代書人ヲシテ代書セシメ其代書人ノ氏名ヲ記入セシムヘシ原告人ノ自書ヲ用ユルヿヲ得ス

書面ノ末ニ署スル氏名ハ其本人ノ自筆ヲ用ヒ代書人ヲシテ代書セシム可ラス若シ本人自書スルヿ能ハサレハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記ス可シ

但第二章但シ書ヲ見ルヘシ

訴訟中原告人又ハ代言人ノ疾病事故ニ因テ假リノ代言人ヲ出ス時ハ原告人又ハ代言人ヨリ仮リノ代言人ニ依頼スルノ証書ヲ出ス可シ若シ証書ナケレハ仮リノ代言人ト為スヿヲ許サス（附錄第十二号ヲ見合スヘシ）

第二卷　被告人ノ答書

第一章　答書ノ定則ノ事

第三十三条　答書ヲ作ルニハ左ノ定則ニ循フ可シ

第一　被告人裁判所ノ呼出狀ト共ニ原告人ノ訴狀ヲ受取ル時原告人ノ陳述スル所条理アラハ速ニ熟議シ原告人之ヲ許諾セハ解訟ヲ乞フヲ得ヘシ其場合ニ於テハ代書人ヲシテ熟議解訟ノ答書ヲ作ラシメ之ヲ裁判所ニ呈ス可シ（第四十七条及四十八条ヲ見合スヘシ）

第二　原告人ノ述ル所非理不実ニシテ矢解ス可キ確証アラハ其書類ノ全文ヲ写載シ次ニ非理不実ノ事ヲ書ス可シ

第三　答書ノ首ニ被告人ノ氏名ヲ記シ住所身分ヲ肩書ニシ答書ノ末ニ年月日ヲ記シ被告人ト代書人トノ氏名連印アルヘシ（附録第十三号ヲ見合スヘシ）

第四　答書ノ末ニ署スル氏名ハ其本人ノ自筆ヲ用ユヘシ若シ本人自署スルヿ能ハサル片ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記スヘシ

第五　答書ハ十六行ニシテ一行十五字詰ニ認メ正副二通ヲ具ス可シ

第二章　代書人ヲ用フル事

第三十四条　被告人自ラ答書ヲ書スルヲ許サス必ス代書人ヲシテ代書セシムヘシ其代書人ヲ撰ミタル時ハ即日裁判所ニ届ケ且原告人ニ報告スヘシ其他代書人ヲ用ユル方法ハ第三条第四条第五条第六条ニ照スヘシ

第三章　代言人ノ事

第三十五条　被告人ノ代言人ヲ用ルモ亦其情願ニ任ス然レ𪜈必ス本人自ラ仝伴シテ訟庭ニ出席シ其結局ハ本人ヨリ決答ヲ為スヘシ

第三十六条　被告人代言人ヲ出ス𪜈ハ答書ノ真書及ヒ連印等ノ方法第三十条ニ照スヘシ

第三十七条　答書ニ関係スルノ書類ハ代言人又ハ保証人ノ類ト雖モ被告人ノ証トナルヘキ者ハ被告人ノ撰ミタル代書人ヲシテ代書セシメ且ツ代書人ノ氏名ヲ記入セシムヘシ被告人ノ自書ヲ用フルヲ得ス

書面ノ末ニ署スル氏名ハ其本人ノ自筆ヲ用ヒ代書人ヲシテ代書セシム可カラス若シ本人自署スルヿ能ハサル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩

ニ記スヘシ

第四章　原告人ノ返リ証文ヲ所有シタル答書ノ事

第三十八条　負債主米金等ヲ返渋スルニ債主原ノ証書ヲ還付セサルヲ以テ二重ノ催促ヲナス訴訟ハ被告人其答書ニ返リ証文（返証文ハ債主ヨリ原ノ証書ヲ還付セスシテ其米金受取ノ証書ヲ交付スルヲ云フ）ヲ写載シ次ニ原告人ニ重ノ催促ヲナシタル旨ヲ書スヘシ

第三十九条　原告人米金等ヲ受取リタルノミノ証書ニシテ償付ノ米金ヲ受取リタル確証ノ文字ナク又ハ他ノ憑拠トスヘキ証跡ナキ時ハ其米金ヲ受取タルノミノ証書ヲ以テ返リ証文ト看做スヿヲ得ス

第五章　原告人ヨリ返渋延期ノ約ヲ破リタル答書ノ事

第四十条　借用ノ米金等ヲ返渋スヘキ期限ニ至リ負債主ヨリ債主ニ熟議シテ返渋延期ノ約ヲ結ヒ其証書ニ押印ヲナシタル債主ヨリ其約ヲ破リ本証文ニ拠リ訴ヘタル答書ハ對談一札（對談一札ト云ハ返済延期ノ証書ヲ云）アルヿヲ記シ次ニ其証書

ノ全文ヲ写載シ次ニ原告人ノ約ヲ破リタルヿヲ書スヘシ

第四十一条　負債主ヨリ返渋延期ノ約ヲ破リタル事件ヨリ起リ債主本証文ニ拠リ訴出タル原由アル片ハ負債主ナル者已レヨリ約ヲ破リタル返渋延期ノ証書ヲ以原告人破約ノ証トナスヿヲ得ス

第六章　原告人証書ヲ偽造シタル答書ノ事

第四十二条　被告人ノ証書ヲ原告人偽造シタル答書ハ其偽造ヲ証スル為ニ管轄町村ノ役場ニ届ケ置タル年月日ノ人別帳ノ写ヲ記載シ次ニ此人別帳ノ印ト証書ノ印ト相違シタル旨ヲ書ス可シ

第七章　経界ヲ争フ答書ノ事

第四十三条　國郡郷村山川田宅等ノ分界ヲ争フ答書ノ方法ハ第十九条ヲ照ス可シ

第八章　既ニ訴ヘラレタル事件ニ未タ訴ヘサル事件ヲ接續スル事

第四十四条　負債主米金ヲ返渋スヘキ期限ヲ

過キテ返渋セサルヲ訴ヘラレタルニ別ニ其債主ヨリ受取ルヘキ米金アツテ其受取可キ期限モ亦過キ未タ訴ヘストモ双方均シク返渋ノ約期ヲ破リタルヲ以テ両件ヲ接続シ差引ノ計筭ヲナサントスル答書ハ負債主ヨリ其別ニ受取ルヘキ米金ノ証書ヲ写載シ次ニ差引計筭ヲナスノ旨ヲ書スヘシ

第四十五条　負債主甲其債主乙其ヨリ借用シタル米金ヲ返渋スヘキ期限過キテ訴ヘラレタルニ答ルニ当リ甲其其借用シタル米金ハ更ニ丙某ニ貸付其期限ヲ過キ返渋セサルヲ以テ既ニ訴ヘラレタル乙其ノ事件ト未タ訴ヘサル丙某ノ事件トヲ接續シテ丙某ノ返渋ヲナスヘキ米金ヲ以テ乙某ニ返渋セシムヲ答ルヲ許サス何トナレハ乙ノ貸ス所ノ者甲ニシテ丙ニ非ス丙ノ借ル所ノ者ハ甲ニシテ乙ニ非サルヲ以テナリ

第九章　對決前熟議解訟ヲナシタル答書ノ事

第四十六条　被告人訴状ニ對シ弁解スルヿ能

ハサル者ハ速ニ原告人ト熟議シ對決前ニ解訟ヲナシタル答書ハ原告人承諾ノ奥書連印ヲ為サシムル可シ（附錄第十四号ヲ見合スヘシ）

第四十七条　前条ノ場合ニテ貸借淹滯ノ訴ニ起ル解訟ノ答書ハ償ノ既決又ハ未済ト雖モ更ニ延期ノ約ヲ結ヒタル等ハ前条ニ照スヘシ各種違約ノ訴訟ハ原被双方ノ熟和ニ至リ又ハ更ニ改定ノ條約ヲ立テタル等モ亦前条ニ照ス可シ

第十章　對決前返済延期ノ約定ヲ為シタル答書ノ事

第四十八条　原被告人對決審判前ニ被告人ヨリ負債ヲ返済スルノ延期ヲ乞ヒ原告人之ヲ承諾シ其審判ヲ仰カス延期ノ日ニ至リ全ク返済スルノ後解訟ノ証書ヲ呈セントスル者ハ其答書ニ延期ノ旨趣ヲ書シテ原告人承諾ノ奥書連印ヲナサシムヘシ（附錄第十五号ヲ見合スヘシ）

第十一章　對決前親戚又ハ朋友ヨリ代償ノ延期ヲ約シテ解訟ヲナシタル答書ノ事

第四十九条　原被告人對決審判前ニ被告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告人ノ負債ヲ延期代償セシムヿヲ乞ヒ原告人之ヲ兼諾セハ熟議解訟ノ答書ニ其延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償人及ヒ原告人ノ奥書連印ヲ為サシム可シ（附録第十六号ヲ見合スヘシ）

第十二章　對決前親戚又ハ朋友ヨリ代償延期ノ約定ヲナシタル答書ノ事

第五十条　原被告人對決審判前ニ被告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告人ノ負債ヲ延期代償セシムヿヲ乞ヒ原告人之ヲ承諾シテ其審判ヲ仰カス延期ノ日ニ至リ全ク返済スルノ後解訟ノ証書ヲ呈セントスル者ハ其答書ニ延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償人及ヒ原告人ノ奥書連印ヲナサシム可シ（附録第十七号ヲ見合スヘシ）

○訴答文例附録

第一号

訴状表紙ノ式　美濃紙大半紙又ハ右寸法ニ仝シキ紙ヲ用ユヘシ

其訴状

年月日

住所
身分
氏名

某訴状トハ仮令ハ貸金ノ淹滞ヲ訴ルハ貸金催
但ノ訴状ト記シ流質地ノ争訟ハ流質地引渡催
但ノ訴状ト記スノ類

訴状ノ式

某訴

標記云云

原告人　住所　身分　氏名

被告人　住所　身分　氏名

第二号

貸金催但ノ訴状

貸金催但ノ訴

原告人　住所　身分　氏名

被告人　住所　身分　氏名

一元金何円　年月日貸附　年月日期限

一利金何円　一年又ハ一月幾分ノ利

合何円

右証文ノ写左ノ如シ

借用証文

一金何円
右云云

貸主　氏名
証人　氏名

名当

右原告人氏名申上候云云

年月日

住所
身分　氏名印

住所
身分　氏名印

某
裁判所長
氏名

第三号

賣掛代金滞ノ訴状

賣掛代金滞ノ訴

原告人　住所身分　氏名
被告人　住所身分　氏名

一金何円
右賣掛帳ノ総計高ニ御座候
但帳面ニ被告人ノ証印有之候
若賣掛帳ニ非スシテ証文ナレハ其証文全文ノ
写ヲ出スヘシ

右原告人氏名申上候云云

年月日

住所身分　氏名印

代書人　氏名印

其

裁判所長　氏名

第四号

買附米引渡違約ノ訴狀

買附米引渡違約ノ訴狀

原告人　住所身分　氏名

被告人　住所身分　氏名

一米何石　年月日買取約定濕此度受取ルヘキ石高

代金何円　一石ニ付何円習

内何円　年月日手附金トシテ渡濕

残何円　年月日限現米引替ニ渡スヘキ約定

右約定証書ノ寫左ノ如シ

証書云云

右原告人氏名申上候云云

年月日

住所
身分
氏名印

代書人
氏名印

其

裁判所長
氏名

第五号

賣附生糸代金引渡違約ノ訴狀

賣附生糸代金引渡違約ノ訴

原告人　住所身分　氏名

被告人　住所身分　氏名

一金何円　年月日限生糸引渡ニテ受取ルヘキ残金高

元金何円　年月日生糸何斤賣附約定ノ金高　但何斤ニ付何円賠

内何円　年月日手附金トシテ受取済

右約定証書ノ寫左ノ如シ

証書云云

右原告人氏名申上候云云

年月日

住所
身分
氏名印

代書人
住所
身分
氏名印

某
裁判所長
氏名

第六号

妻離別ノ訴狀

原告人　住所　身分　氏名

被告人　住所　身分　氏名

妻離別ノ訴

夫氏名当何歳

妻氏名当何歳

某御役所ニ差出置候年月日ノ戸籍人別帳ノ寫左ノ如シ

年月日要ル

人別帳云云

右原告人氏名申上候云云

年月日

住所
身分
氏名印

前書申上候處相違無御座候

住所
身分
氏名印

原告人ノ祖父母父母等
氏名印

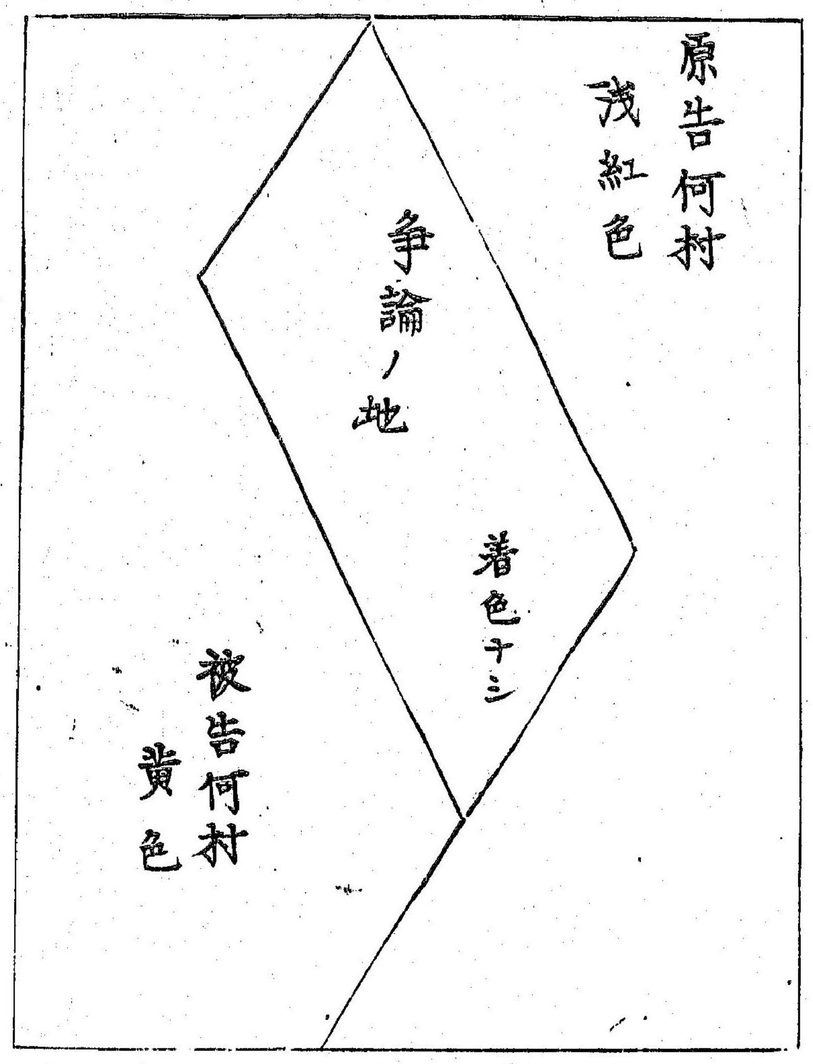
裁判所長
氏名

第七号

經界ヲ爭フ繪図ノ式

年月日ノ原図 何牧ノ一
年月日焉之

住所
身分
原告人 氏名印



第八号

原告人三人以上ナルヲ一人ニ付スル訴状

住所
身分
原告人　氏名

住所
身分
被告人　氏名

其ノ訴

標記云々

右原告人氏名申上候云云

年月日

氏名印

住所
身分
代書人　氏名印

前書ノ儀原告私共連名ニテ御願可申上
苦ニ御座候處病気云云ニテ難罷出ニ付
何ノ誰ヘ総代相頼候然ル上ハ何ノ誰ヨリ
申上候事柄并ニ御受仕候事柄共後日ニ
至リ私共ヨリ異議申上間敷候為後証奥印
仕候

年月日

住所
身分
氏名印

住所
身分
氏名印

住所
身分
代書人　氏名印

某
裁判所長
氏名

第九号

被告人連名中脱走又八病死人アルノ訴状

某ノ訴

原告人 住所 身分 氏名

被告人 元住所 身分 氏名

被告人 氏名

右何ノ誰八年月日脱走致シ候段何町村役人何ノ誰ヨリ承知仕候

右原告人氏名申上候云云

年月日

被告人　住所　身分　氏名

右何ノ誰ハ年月日死亡致シ候段何町村役人何ノ誰ヨリ兼知仕候

氏名印

住所
身分
氏名印

裁判所長
氏名

第十号

譲証文ヲ以テ催促スル訴状

某ノ訴

原告人　住所　身分　氏名

被告人　住所　身分　氏名

一元金何円

一利金何円

合何円

右証文ノ寫左ノ如シ

証書云云

右讓証文ノ寫左ノ如シ

証書云云

右原告人氏名申上候云云

年月日

住所
身分
氏名印

某

裁判所長

氏名

氏名印

第十一号

代言人ヲ頼ム訴狀

住所
身分
原告代言人　氏名

住所
身分
被告人　氏名

某ノ訴

標記云云

右原告代言人氏名申上候云云

前書ノ儀私ヨリ御願可申上筈ニ御坐候処
何々ノ旨趣ニ付何ノ誰ヘ代言相頼候然
ル上ハ何ノ誰ヨリ申上候事柄并ニ御役
申上候事柄共後日ニ至リ私ヨリ異議申上
間敷候為後証奥印仕候

年月日

住所　氏名印
身分

代書人　住所　氏名印
身分

某裁判所長　氏名

住所　氏名印
身分

第十二号

一時仮リノ代言人ヲ出ス証書

住所
身分
当日代言人　氏名印

右ハ何々ノ儀私ヨリ訴出候付罷出奏曲
申上度奉存候処病気ニ付今日限何ノ誰
ヘ代言相頼候若御尋ノ儀仝人ニテ御對
申上兼候廉有之候ハヽ私快気次第罷出
可申上候

年月日

住所
身分
氏名印

住所
身分
代書人　氏名印

某
裁判所長
氏名

第十三号

答書表紙ノ式　用紙寸法第一号訴状ノ法ノ如シ

年月日

某ノ答書

住所
身分
氏名

答書ノ式

某ノ答

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候付
今日御呼出ノ御狀拜見仕御答申上
候

私儀云云

住所身分
被告人　氏名

証據ノ書類アラハ其寫ヲ記載スヘシ

右ノ通御坐候

年月日

住所
資分
氏名印

代書人　氏名印

某
裁判所長
氏名

第十四号

對決前熟識解訟ノ答書

住所
身分　被告人　氏名

某ノ訴済口ノ答

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出ノ御状幷見仕原告人ヘ熟識録方仕候趣申上候

私儀云云

年月日

氏名印

前書被告人何ノ誰ヨリ申上候通熟談濟
方仕候付此上對決御裁断不奉願候

代書人　住所　身分　氏名印

年月日

原告人　住所　身分　氏名印

代書人　住所　身分　氏名印

某
裁判所長
氏名

第十五号

對決前返済延期ノ約定ヲ為シタル答書

被告人　住所　身分　氏名

某ノ訴汝ロ日延ノ答
右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候付今何
日御呼出ノ御状拝見仕原告人ヘ熟談ノ上
汝方日延約定仕候段左ノ通御坐候

私儀云云

年月日　　氏名印

代書人　住所　身分　氏名印

前書被告人何ノ誰申上候通熟談ノ上済方日延約定仕候付来何年何月迄御裁判御猶豫奉願候

年月日　　原告人　住所　身分　氏名印

代書人　住所　身分　氏名印

其

裁判所長　氏名

第十六号

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル解訟ノ答書

被告人　住所　身分　氏名

其ノ訴何ノ誰ヨリ日延代償ニテ済ロノ答

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出ノ御状拝見仕原告人ヘ熟談ノ上親族朋友中何ノ誰ヨリ日延代償約定仕候段左ノ通御坐候

私儀云云

年月日

代書人　住所　身分　氏名印

前書被告人何ノ誰申上候通私共ヨリ日延代償ノ約定仕候段相違無御座候

年月日

代償人　住所　身分　氏名印

代書人　住所　身分　氏名印

前書被告人何ノ誰申上候通私共承諾仕候付此上對決ノ御裁斷不奉願候

年月日

原告人　住所　身分　氏名印

代書人　住所　身分　氏名印

其

裁判所長

氏名

第十七号

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル答書

被告人　住所　身分　氏名

某ノ訴何ノ誰代償濟ロ日延ノ答

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候付今何日御呼出ノ御狀拜見仕原告人ヘ熟談ノ上親族朋友中何ノ誰ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候段左ノ通御坐候

私儀云云

年月日

代書人　住所　身分　氏名印

氏名印

前書被告人何ノ誰申上候通私共ヨリ代償済方日延ノ約定仕候段相違無御座候

住所　身分　代償人　氏名印

年月日

住所　身分　代書人　氏名印

前書被告人何ノ誰申上候通熟談ノ上何ノ誰ヨリ代償済方日延約定仕候付来何年何月何日迄御裁判御猶豫奉願候

年月日

住所　身分　原告人　氏名印

住所　身分　代書人　氏名印

某

裁判所長

氏名

第十八号

外國原告人訴狀ノ式

訴狀

原告人　本国住所身分　氏名

被告人　住所身分　氏名

右原告人氏名ヨリ右被告人氏名ニ對シ当
御裁判ヘ左ノ通訴訟申上候

第一云云

但シ訴訟ノ根元事實ノ大畧ヲ明白ニ認ムヘシモシソノ

第二云云
第三云云
依之原告ヨリ御裁判所ヘ云云被成下度願
上候事

事実混交シテ長文ナル片ハ第一第二第三条ト之ヲ區別スヘシ

但シ何等ノ處置ハ原告人ノ所願ニ候ヤ金子ノ拂カ其金高何程カ右判然ト認メ其他公正ノ御裁判ヲ願ノ趣ヲ認ムヘシ

日本地名
年月日

原告人　氏名花押

某
裁判所長ノ
氏名

若シ原告人ノ代言者アル片ハ左ノ如ク加判スヘシ

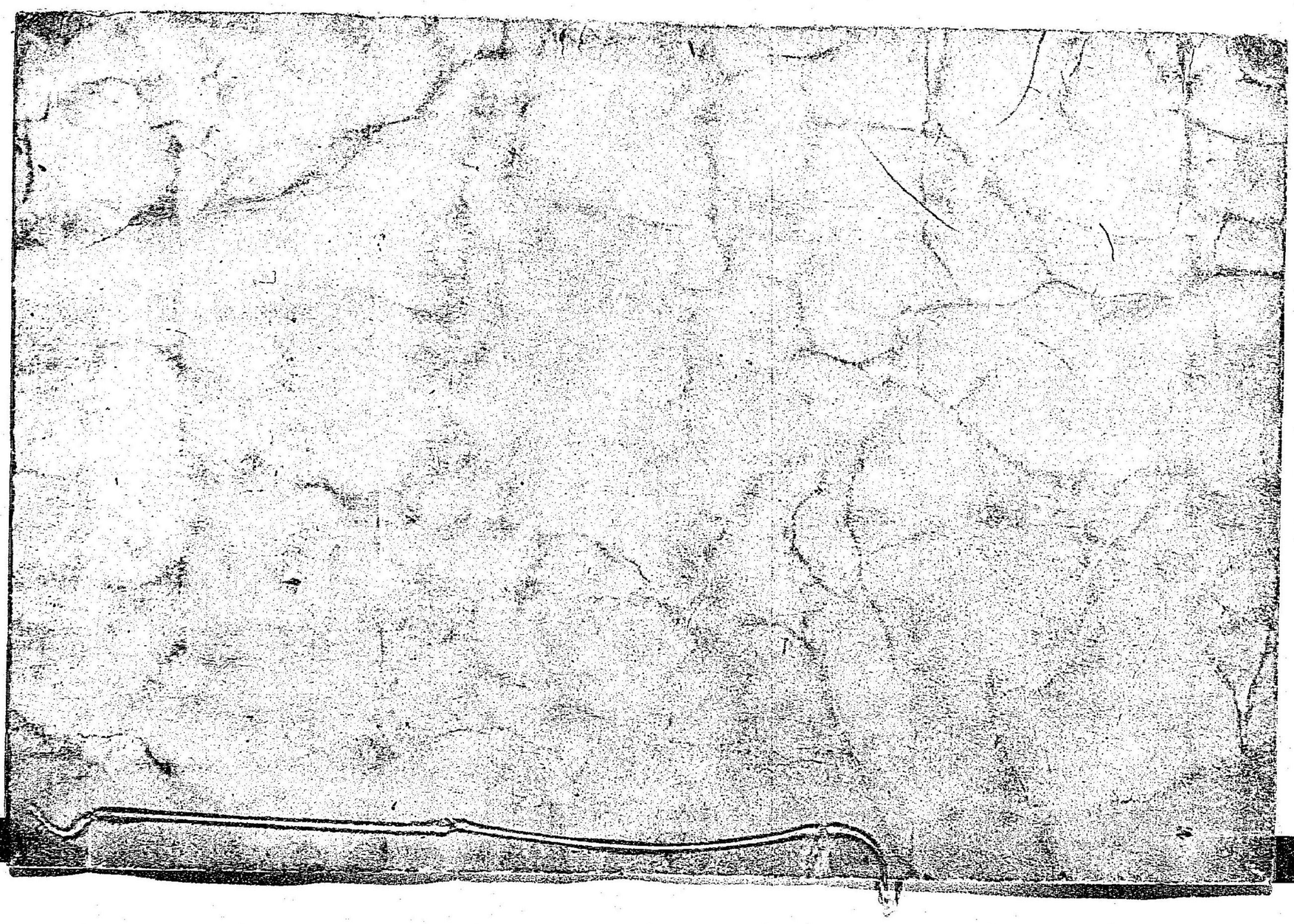
代言者　氏名花押

訟庭要覽附錄終

官許明治七年十月

發兌　兵庫相生町　鳩居堂

東京　吉川半七

西京　佐々木惣四郎

大阪　松村九兵衛